

2月17日(月)2020年

新潟日報

Otona
おとなプラス

妙高山のふもとを流れる関川は冬の間、雪のため上流部には行くことができない。それでも何とか苗名滝の冬景色を撮りたいものだと思い、雪山用の装備をそろえ、昨冬う回撮影に行った。今年もせっかく本紙で関川を訪ねるのだからと、天気図とにらめっこしながら、夜の苗名滝、星空バージョンに挑戦することにした。

2月11日、高気圧が移動してきて夜は晴れると見込んで出発。しかし前日に50センチくらい新雪が積もり、かんじき

雪景に瞬く星座 心震え

関川(妙高)

を着けても膝の上までもぐつてしまう。足が重くて進まないし、汗がぼたぼた落ちる。趣味で雪山登山をする人の気持ちが全く分からないと思いながら進んだ。昨年1時間半くらいかかった道のりを2時間半もかかって何とか滝の前まで到着。すっかり暗くなってしまったが、午後7時半には月が昇り夜空が明るくなってしまったので、星を撮るには30分くらいしかチャンスがない。

予想通り少しずつ雲が晴れ、7時こ

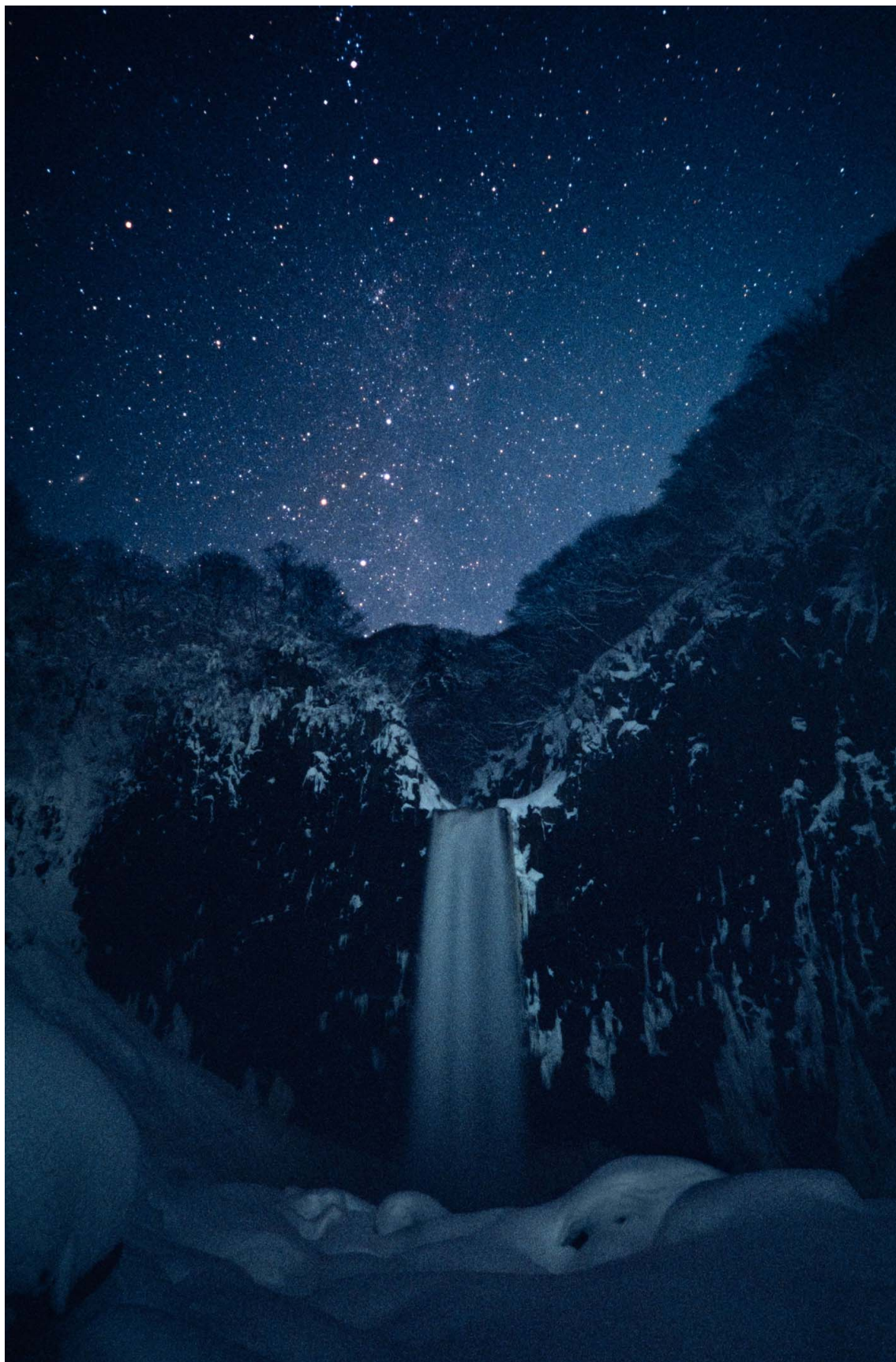
ろ滝の上にカシオペア座が輝く。冬の滝と星空の絶景、疲れがいつぱんに吹き飛んだ。急いで撮影を始めるが、滝つぼから舞い上がる水煙が襲ってきて、15秒もたらずにレンズを曇らせてしまう。1カットごとにレンズを拭きながら、9カット撮ったところで空が明るくなってきて、振り返ると月が顔を見せていた。



本日の案内人

渡部 佳則

(写真家)



苗名滝の上方にMの字をしたカシオペア座が横倒しになって沈んでいく。星空の撮影だけは、星の輝きの表現が良好なので、今もフィルムで撮影している